

方 面	英陸軍との実動訓練	(1面)
1 師 団	師団車両操縦競技会	(3面)
12 旅 団	英陸軍との実動訓練	(4面)
1 施設団	方面施設科職種合同訓練	(5面)
関東補処	年頭行事	(5面)



令和7年2月25日 第1081号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙

発行所：方面総監部広報室

住 所：東京都練馬区大泉学園町

専用線：8-37-2446

V I 24

英陸軍との実動訓練

12旅団が主力で参加



由布岳とCH-47を背景に記念撮影



旅団長による訓示(訓練開始式)

方面隊は1月8日から2月3日までの間、日出生台演習場等において、島しょ防衛に係る作戦遂行能力の向上を図るとともに、陸自と英陸軍(第16空中強襲旅団戦闘団)との相互理解・信頼関係の促進に資する目的で英陸軍との実動訓練(ヴィジラント・アイルズ24)を担当した。

ヴィジラント・アイルズは「常に目を光らせている島」を意味し、日英

両国がともにユーラシア大陸の両端に位置する島国として密接に連携しつつ、インド太平洋地域の安定に寄与するという両国の方針に由来するものである。

本訓練の特色は①島国である日英両国の共同による島しょ防衛作戦に係る訓練であること②高い空中機動能力を有する第12旅団が英陸軍及び第1空挺団と連携して実施する訓練であること③日本国内において日英円滑化協定を適用して実施する実動訓練であり、日英両

国間の安全保障・防衛協力をさらに推進する重要な機会になることであり、12旅団を主力として行われた。

23日の総合訓練は駐日英国大使、陸上幕僚長、総監等が視察する中で行われ、占領された島を取り戻すため、CH-47・UH-60から降り立った自衛隊と英陸軍は、連携して奪還作戦を遂行、所望の成果をあげることができた。関連④面

方面第一線救護競技会

1普連・1施設団が優勝



諸職種(A)の部 優勝 第1普通科連隊



諸職種(B)の部 優勝 第1施設団



衛生科の部 優勝 第1普通科連隊

方面隊は1月23日・24日の両日、朝霞駐屯地修練館において、方面管内の全職種部隊を対象とし

て、「貴官は本当に仲間の命を救えるか!」をテーマに令和6年度方面戦傷治療集合訓練(方面第一

線救護競技会)を実施した。本競技会は「第一線救護及び「心肺蘇生法」

の2個課目の合計点を競うものであり、参加部隊を「諸職種の部(諸職種(A)衛生科職種以外)と「衛生科の部(衛生科職種)」に区分して行われた。諸職種の部

23個部隊、衛生科の部15個部隊、計38個部隊、182人が参加し、それぞれが保有する第一線救護能力を競い合った。

競技会当日は爆発音が鳴り響き、大量の模擬血液による傷病者の現示、応急処置ができなければ仲間の命が失われる等、実戦に近い状況付与の中、仲間の命を救うため各部隊が各々の練成成果を遺憾なく発揮していた。

競技会参加者からは「リアルな状況による訓練を経験でき、日ごろの訓練では獲得できない衛生科の識能を得るとともに、チーム一丸となり取り組むこと

土浦駐屯地

心肺停止の隊員を救命処置 総監から善行褒賞



総監から褒賞された隊員と土浦駐屯地司令(中央左)等の記念撮影

総監は1月24日、総監部において、心肺停止の隊員の救命処置を実施した土浦駐屯地の隊員6人に対して善行褒賞を行った。

褒賞を受けた富永1曹は「いつも困難な状況を想定しているのに、緊張感もありながら冷静に行動できたと思っている。AEDのボタンを押すときは指が震えていましたが、何より隊員が蘇生し、勤務復帰できたことが嬉しい」と話し、当时を振り返った。

善行褒賞 武器学校 曹長 田代 昌彦 1曹 岩切 潤也 2曹 稲田 直人 2曹 末岡 卓馬 技官 田口 典子

で、救急法検定では到達できないレベルを体験することができた」等の感想が聞かれる等、本競技会の実施により、方面隊の戦傷治療の実効性の向上を図ることができた。

- ▼諸職種(A)の部 優勝 第1普通科連隊 準優勝 第30普通科連隊
- ▼諸職種(B)の部 優勝 第1施設団 準優勝 第1施設大隊
- ▼衛生科の部 優勝 第1普通科連隊 準優勝 第1偵察戦闘大隊

緊急時の中核給油所等における 給油に関する協定

迅速に目的地に前進することが可能に

総監部装備部は1月29日、エネクスフリート(株)、1月31日、(株)ENEOSウイング、2月3日、(株)宇田川コーポレーションとの間に、(株)佐美鋳油に引き続き「緊急時の中核給油所等における給油に関する協定」を締結した。

本協定の締結により、令和5年度に締結した企業等を含めて、緊急時に全国の陸自部隊等が活用可能な給油所を東方管内42箇の中核給油所に拡大するとともに、東方管内所在部隊等は全国の中核給油所を含む約1300箇の民間給油所を使用でき、かつ緊急車両に対する優先的な給油を実施することを役割とする給油所として設定したものであるもの、陸上自衛隊として活用するための枠組みが未整備であったことから、令和5年度以降3箇企業(株)宇田川コーポレーション、(株)佐美鋳油、(株)武重商会及び新商(株)との協定締結により、東方管内で合計29箇給油所の活用が可能となる。

この度、エネクスフリート(株)、(株)ENEOSウイング、(株)宇田川コーポレーションとの協定により東方管内所在部隊等に対し平素から給油力ードの配布について合意をいただき、緊急時には全国に展開する3箇企業の保有する民間給油所を活用することが新たに可能となる。

本協定の締結により、災害派遣等における機動展開において、最寄り駐屯地で給油するため高速道路を降りることなく、経路上の中核給油所等で給油し、より迅速に目的地に前進することが可能となること、部隊等の給油の融通性を向上し、機動経路選択の自由を付与することが可能となる。

今年1年の無事を祈願 年始行事



総監部は1月10日、年始行事を実施した。行事においては総監が慰霊碑に献花した後、だるまへの入瞳を行い今年1年の無事を祈願した。総監は「昨年、陸上自衛隊演習、自衛隊記念日観閲式、YS等、方面隊に与えられた重要な任務を完遂できたことは、全隊員が一丸となって『強靱な東部方面隊の創造』に向けて取り組んだことによる証であったと確信している。諸官も新年を迎えるにあたり、決意を新たにしたい」と訓示した。

緊急時の中核給油所等における 給油に関する協定調印式



(株)ENEOSウイングとの協定調印式

緊急時の中核給油所等における 給油に関する協定調印式



エネクスフリート(株)との協定調印式

防衛意識の高揚を図る 総監が防衛講話

総監は1月17日、東部方面隊の部外協力団体で年会において防衛講話を



安全保障環境について熱心に講話

実施し、防衛問題に対する理解促進及び防衛意識の高揚を図った。総監による講話は「安全保障環境」「陸上防衛力の強化」「東部方面隊の強靱化のための取り組み」をテーマに行われ、厳しさを増す周辺情勢やそれに対する陸上自衛隊としての対応、自衛官の処遇改善等について説明し、約75人の参加者は熱心に聴講していた。



自衛官の処遇改善について説明

自衛官としての決意新たに 各駐屯地で20歳を祝う会

1月中旬、各駐屯地において、駐屯地所在隊員、部外協力者等が参加し20歳を祝う会が行われた。祝う会では駐屯地司令による式辞のほか、20歳の節目を自衛官として迎えた隊員がこれまでの20年間を振り返り、これまで支えてくれた家族や成長させてもらった部隊の先輩等に感謝を述べるとともに「失敗を恐れず、何事にも挑戦して、成長していきたい」「日々訓練

に励み、立派な自衛官になる」「勉強と体力錬成をして陸曹を目指す」等の新たな決意を述べ、更なる飛躍を誓っていた。富士駐屯地では一連の行事のほか、富士最速椅子レースFFC(Fuji Fast Chair Race)(写真右下)が行われ、駐屯地隊員等が見守る中20歳を迎えた隊員による熱いレースが繰り広げられた。

相馬原駐屯地 二十歳を祝う会



相馬原駐屯地

祝 高田駐屯地 二十歳を祝う会



高田駐屯地

祝 霞ヶ浦駐屯地 二十歳



霞ヶ浦駐屯地

祝 土浦駐屯地 二十歳の集い祝賀会食



土浦駐屯地



朝霞駐屯地



習志野駐屯地



富士駐屯地

第1師団

培った技術と安全への思いの集大成
師団車両操縦競技会32普連が優勝

師団は11月16日から12月8日までの間、練馬駐屯地の自動車訓練場において令和6年度師団車両操縦競技会を実施した。
本競技会は師団各部隊の操縦手の安全運行意識及び操縦技能の向上を図るとともに、操縦手と車長の連携要領を確立し、事故防止を図ることを目的に行われた。

競技会に先立ち師団長は「本競技会は高度な技能や速度を追求するものではない。本競技会に参加する隊員全てが安全確実に完走し、また競技会

に参加しない全ての隊員においても車両運行に対する意識の高揚、操縦技能の向上等、年間を通じて各部隊が計画的な練習に取り組んできた成果を発揮してもらいたい」と訓示した。本競技会ではあらかじめ定めるコースにおいて、実際の交通の流れを再現して、事故が起こりやすい状況を一部設定し、競技参加者が基本



会場一体となり盛り上がったアンコール

室内楽演奏会を実施
中学生に演奏技法のアドバイスも



1 音長が学生に演奏のアドバイス

師団長自ら音大生を激励

第1音楽隊は11月19日、成増アクトホールにおいてアドバイスをした。また演奏会に合わせて32普連の隊員は会場入り口付近で装備品展示を行う等、全隊員が一丸となり、自衛隊に対する地域住民の理解の獲得、信頼感の醸成に寄与した。
来場した音大生からは「すばらしい演奏で感動した。私も自衛隊音楽隊の一員になれるようがんばりたい」、またアンサンブルコンテストに参加する高校生からは「力強い音の中にやさしい気持ちが込められていて、どうしたらそんなに美しい音が出せるのかと感動した」など好評を得た。



師団長より安全運行の心構えについて確認を受ける隊員



下車誘導により安全に狭路を通過させる隊員

埼玉県国民保護訓練・東京消防庁総合震災消防訓練

相互連携の強化を図る
対処能力
関係機関の訓練に積極参加

師団は関係機関が実施する防災訓練等に参加し、関係各機関との相互連携、対処能力の強化を図るとともに、自衛隊に対する信頼感を醸成するなど地域住民等の防災・防衛意識の高揚に寄与した。
11月15日にアイル・アリーナウイングハット春日部において埼玉県と春日部市の共催で実施した国民保護実動訓練に第32



傷病者の搬送(国民保護訓練:32普連)



偵察用オートバイの卸下(消防訓練:1飛)



重機による道路啓開(消防訓練:1施大)



要救助者の搜索(消防訓練:1普連)

普通科連隊及び第1飛行隊が参加した。
本訓練はアリーナでのイベント開催中に化学剤が散布されたという想定により、埼玉県警、春日部市消防本部、日本赤十字社埼玉県支部等の多数の関係機関が参加して行われた。
訓練では32普連が消防及び化学学校と連携して除染を行うとともに、救

護においては日本赤十字社がトリアージした傷病者と野外救急車により後送し、化学学校が採取した化学剤の検体を1飛がヘリコプターで研究施設へと搬送した。
11月30日には東京消防庁夢の島訓練場において、東京消防庁が実施した総合震災消防訓練に第1普通科連隊、第1施設大隊及び1飛が参加した。

本訓練は都心を震源とする最大震度7の地震が発生したと想定し、東京消防庁の全消防職員が参加して都内各地で実施された。
夢の島訓練場では地震による建物の倒壊及び土砂崩れ等で救助活動現場に近づけない中、炎が迫る想定で行われ、東京消防庁と連携した情報収集活動及び救助活動が行わ

れた。
情報収集活動では、1飛の多目的ヘリコプターUH-1で救助活動現場に1普連の偵察用オートバイを搬送し情報収集を行った。また救助活動では1施大が東京消防庁と連携して重機により緊急車両通行のための道路啓開を行い、1普連が高機動車で救助現場に進出し要救助者の搜索及び救

出を行った。
師団は今後も、関係機関との防災訓練等を積極的に実施し、災害対処能力の維持・向上及び災害対処計画の実効性向上を図り、大規模震災等による災害において首都機能の維持に貢献できるように最善の限りを尽くしていく。



傾聴技法の実習に取り組み丹羽士長

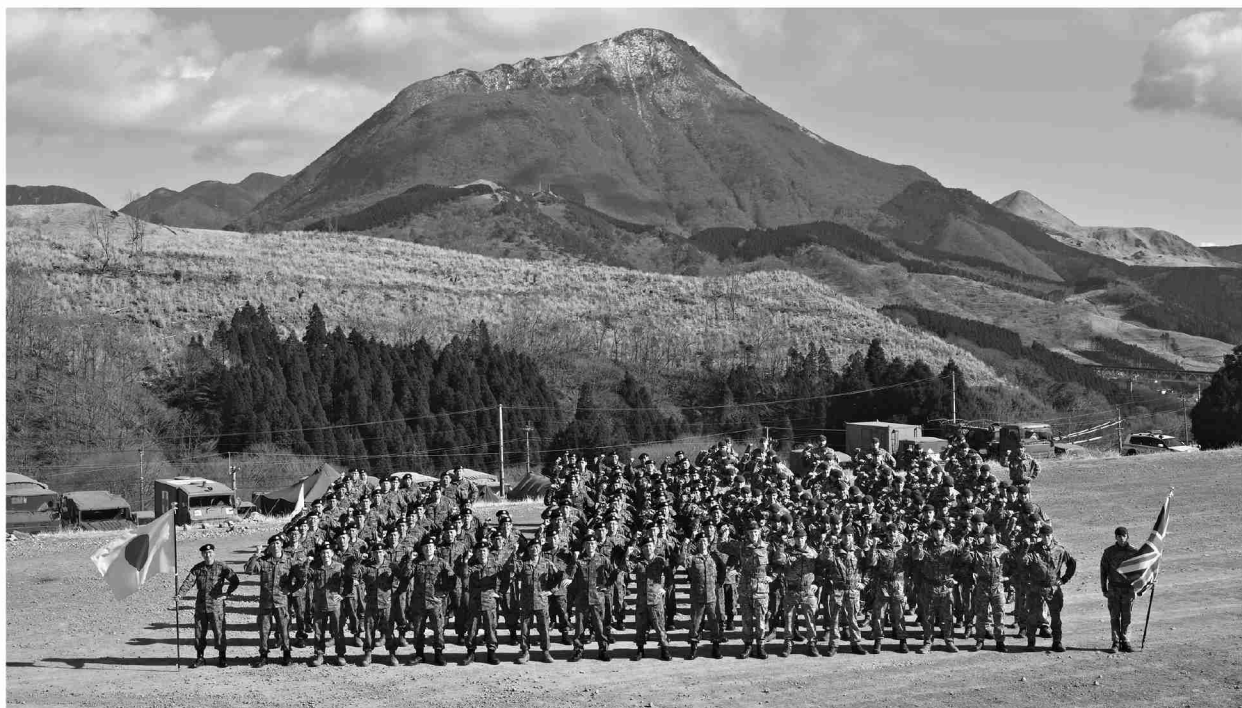
と笑顔で話してくれた。
今回、陸士で参加した丹羽士長は「私も部隊相談員に相談した経験があります。『相談する』ということが大きなハードルでした。しかし相談すると悩みが晴れて心が強くなれました。だから誰でも相談しやすい窓口になればうれしいです」と笑顔で話してくれた。

部隊相談員
養成訓練
信頼安全に満ちる職場環境
心の窓口相談員を養成
師団は12月3日から6日までの間、第2回師団部隊相談員養成訓練を実施した。本訓練は各部隊の部隊相談員及びその予定者等に対し、メンタルヘルス施策、傾聴の基本的技法、ストレス対処法等を教育し、部隊の相談窓口となる隊員を養成することを目的として実施された。

本訓練は陸士でも相談しやすい窓口を作るため、陸士の隊員にまで訓練参加の門戸を広げて行い、軽易な相談対応や各種専門窓口への繋ぎに関する技能向上も図った。
部外講師を招致して行われ、傾聴技法、各種ハラスメント対処法及び個人的ストレス対処法等について座学を通じ学び、その学んだことを実習により実践演練した。

今回、陸士で参加した丹羽士長は「私も部隊相談員に相談した経験があります。『相談する』という

第12旅団

英陸軍との信頼関係を強化
ヴィジラント・アイルズ24

由布岳を背景に訓練に参加した日英両部隊

旅団は1月8日から2月3日までの間、大分県日出生台演習場において旅団長を訓練統裁官として、令和6年度英陸軍と

の実動訓練（ヴィジラント・アイルズ24）に参加した。本訓練は高い空中機動能力を有する作戦基本部隊である12旅団と、空挺・ヘリボン作戦の分野において優れた戦術技量を有するイギリス陸軍の第16空中強襲旅団戦闘団

との実動訓練であり、島しょ防衛に係る作戦遂行能力の向上を図るとともに、陸自とイギリス陸軍との相互理解・信頼関係の促進に資することを目的として行われた。

訓練開始式にあたり、旅団長は日本側統裁官として「戦闘力の組織化」を要望し、「空中機動、地上機動、情報、火力、兵站、衛生、指揮通信等の各種戦闘力を有機的に組織化するとともに、第16空中強襲旅団戦闘団との密接な連携により、日英共同による作戦遂行能力の向上に努めてもらいたい」と訓示した。

訓練は前段の機能別訓練と後段の総合訓練に分けて実施し、日英共同による指揮・幕僚活動のもと、空挺・ヘリボンによる戦力投入、衛星写真・UAV・電子戦等の新領域を含む各種情報と火力の連携、第一線救護から日英間の補給品供与を含む後方支援等、日英部隊が有する各種戦闘力を総合的に演練し、練度向上を図った。

併せて陸上、海上、航空の各種機動を併用し、



目的地に降着するヘリコプター群



CH-47による英軍ヘリボン展開



訓練を視察する陸上陸幕長と駐日英国大使



日英による共同予行（CPX）



日英による第一線救護・衛生訓練



防災フェア装備品展示

自治体関係者を招いて防災フェア
災害時における自衛隊の活動を紹介

旅団は12月12日、相馬原飛行場において旅団防

災フェアを行った。

本行事は群馬、栃木、新潟、長野の各県自治体等の関係者に対して、旅

団の災害派遣活動についての説明や装備品展示を行い、自衛隊の活動に対する理解の促進を図る目的で実施した。

当初CH格納庫内で、司令部第3部から参加者に対して概要説明を実施した。その後エプロン上

で、旅団隷下部隊及び第48普通科連隊により装備品展示を実施して、07式機動支援橋、化学防護車及び能登半島沖地震でも



空中消火展示

活躍した野外入浴セットなど、それぞれの装備について説明した。

最後に山林火災における空中消火展示を実施し、消火バケットの取り付けや、飛行場滑走路に散水する様子を間近で確認して頂いた。

なお自衛隊群馬地方協力本部が募集対象者等に本防

警察・防災関係者との連携強化
関東管区広域緊急援助隊合同訓練に参加

空中機動により被災地に展開する警察官

旅団は12月17日、相馬原演習場及び相馬原飛行場において、群馬県警察が主催する令和6年度関東管区広域緊急援助隊合同訓練に参加し、警察を含む防災関係者との連携を強化して災害対処能力を向上させること

に、関東管区警察局及び群馬県警察の訓練目的達成に寄与した。

本訓練に当たりCHに搭乗する警察官に対し、事前に相馬原飛行場で調整を行い、訓練に万全を期した。また相馬原演習場に土砂災害現場を大規模に再現し訓練を行うなど、参加者は緊張した状況で訓練に臨んでいた。

訓練においては第12ヘリコプター隊が、群馬県警察航空隊と共同で航空機飛行統制要員とCH-47による警察車両、人員の空中機動及び被災した軽症者の輸送を行った。また第48普通科連隊は警察との共同による人命救助活動（道路啓開・土砂掘削捜索）を行った。

東混団

消せない常備と即自の絆

31普連が訓練検閲



派遣要員に対する概要説明



派遣要員に対する概要説明

第31普通科連隊は令和6年10月25日から28日の間、06陸演の枠組みの中で、連隊訓練検閲を受閲した。常備と即自478人が一体となり、連隊長要望事項「情報の共有」「ホ・レ・テ・カ・ツ・ゾの実践」を徹底し、練度を蓄積してきた施設防

護の任務を完了した。31普連の即自は検閲等受閲時、「常備のため、参加しよう」とやりとりをして、大半の即自は招集訓練前日は夜遅くまで残業等の仕事をして、招集訓練最終日の次の日の早朝には仕事が始まり、国防のためとはいえども、すべてを犠牲にして訓練に臨んでいた。

志願の動機はさまざまであり「お世話になった家族のような自衛隊に恩を返したい、常備の力になりたい」といった声を多く聞くとともに、民間企業も人手が足りないため、現場の負担を気にし

ながら出頭する人、即自を退職した先輩から「つまらんこと気にしないで、現場は俺に任せて、好きなだけ訓練に励んで来い」と背中を押されて出頭する人などさまざま状況の中で訓練に参加していた。

招集訓練では、陸士長を退職した即自の分隊長が常備員向けの指揮を實施した。陸曹教育を履修していない彼らが、ここまでするのは本人の努力のほかに、「失敗から学んだなら一歩前進。だから、挑戦せよ」という後継者を育てるといった伝統があるからだ。

こういった自衛隊の魅力に魅かれて、自衛官募集(予備自衛官等を含む)に尽力する即自も多くなって、人的防衛力の要

これまで築いてきた即自との絆を、更に発展させるための準備はこれから始まっており、即自に対する真心のこもった常備

た。招集訓練では、陸士長を退職した即自の分隊長が常備員向けの指揮を實施した。陸曹教育を履修していない彼らが、ここまでするのは本人の努力のほかに、「失敗から学んだなら一歩前進。だから、挑戦せよ」という後継者を育てるといった伝統があるからだ。

こういった自衛隊の魅力に魅かれて、自衛官募集(予備自衛官等を含む)に尽力する即自も多くなって、人的防衛力の要

後支隊

硫黄島戦没者慰霊事業に寄与

安全・確実に不発弾を処理



爆破処分景況



硫黄島で見えられた不発弾

東部方面後方支援隊第102不発弾処理隊は、令和6年12月18日から26日までの間、東京都小笠原村硫黄島において厚生労働省が実施する「硫黄

島戦没者慰霊事業(不発弾等爆破処分)を支援した。この間、島内での掘削や壕内の調査等の過程で発見された不発弾等を迅速かつ正確に識別し、適切に処理して、本事業を支援した。

この際、周囲に危険区域を表示する等の処置を講じて安全管理態勢を万全にし、運搬可能な不発弾等は島内の一時保管庫まで回収及び集積するとともに、運搬不可能な不発弾等は厚生労働省及び海上自衛隊との綿密な調整のもと、現地において爆破処分を実施し、本事業に対する支援任務を完了した。

本事業支援に初めて参加した齋藤2曹は「今回が初めての処理でしたが、硫黄島での爆破処分に関する事前教育を受けたとともに、充分な事前訓練を実施し、万全の状態でも不安なく不発弾処理に臨み、無事に任務を完了することができた。この経験を次の処理任務に生かすとともに、後輩隊員へ技術及び知識を継承できるように、更なる自学研鑽に努めていきたい」と所感を述べた。

東部方面後方支援隊第102不発弾処理隊は、今後も緊急の不発弾処理に即応すべく訓練を実施して、練度を維持・向上させ、民生の安定に寄与していく。

シ通群

将来を担うシ通科隊員を養成

急激に進化する分野に対応



厳粛な雰囲気で行われた入隊式

東部方面シテム通信科隊員として必要な専門的知識・技能を修得させることを目的として、第2高射特科群、東部方面後方支援隊、第1通信大隊から要員支援を受けて実施しており、11月18日から教育基盤を整備しつつ教育、助教への教育、教授予行等を確実に実施して教育態勢を万全にして教育に臨んでいる。近年、シス

隊員として必要な専門的知識・技能を修得させることを目的として、第2高射特科群、東部方面後方支援隊、第1通信大隊から要員支援を受けて実施しており、11月18日から教育基盤を整備しつつ教育、助教への教育、教授予行等を確実に実施して教育態勢を万全にして教育に臨んでいる。近年、シス

隊員として必要な専門的知識・技能を修得させることを目的として、第2高射特科群、東部方面後方支援隊、第1通信大隊から要員支援を受けて実施しており、11月18日から教育基盤を整備しつつ教育、助教への教育、教授予行等を確実に実施して教育態勢を万全にして教育に臨んでいる。近年、シス

隊員として必要な専門的知識・技能を修得させることを目的として、第2高射特科群、東部方面後方支援隊、第1通信大隊から要員支援を受けて実施しており、11月18日から教育基盤を整備しつつ教育、助教への教育、教授予行等を確実に実施して教育態勢を万全にして教育に臨んでいる。近年、シス

隊員として必要な専門的知識・技能を修得させることを目的として、第2高射特科群、東部方面後方支援隊、第1通信大隊から要員支援を受けて実施しており、11月18日から教育基盤を整備しつつ教育、助教への教育、教授予行等を確実に実施して教育態勢を万全にして教育に臨んでいる。近年、シス

航空隊

国緊隊 派遣態勢完了

派遣要員に対し隊長訓示



派遣要員に対する概要説明



航空隊長による訓示

航空隊は1月14日、国際緊急援助隊派遣態勢完了に伴う航空隊長訓示を行なった。訓示に先立ち、担当幹部より派遣要員に対して概要説明が行われ

た。自衛隊の国際緊急援助隊は1992年の「国際緊急援助法」改正以降

23回(17カ国)派遣されており、航空部隊の援助活動としては物資輸送の他、航空機の整備、通信、管制・気象及び航空安全等、各種業務を行っ

てきた。隊員らは真剣なまなざしで業務を確認し、物心両面の準備を整えた。訓示において航空隊長は、国際緊急援助隊派遣のための態勢について命下し、「本日本までの間、派遣に備えた準備訓練やワクチンの接種、個人装具の準備等を完璧し、いつ派遣されても即応できる態勢をとってく

は自然災害が多発している」と隊員を激励した。

を体感しつつ練度向上を図ることができるよう訓練装置です。近年は防衛法制訓練や衛生職種の第一線救護のシナリオを追加しつつ、従来からの小部隊の射撃指揮能力及び射撃能力の向上に寄与しています。

最後に、EACTSでは、共通職種で幹部、陸曹の再任用配置可能ポストを準備しています。現職間に部隊指揮官、幕僚等の要職において培った識能を我々とともに発揮し、方面隊隷下師団等の指揮・幕僚活動能力の向上に寄与しましょう。

訓練所感



指揮所訓練支援隊 3等陸佐 小野芳明

所演習)は指揮所訓練統裁支援サービス(ICC)により、訓練参加部隊の規模や訓練の狙い等に応じた訓練環境を準備して方面隊隷下部隊の練度向上に寄与するとともに、多様な訓練ニーズに対応できるように近年広がりつつある宇宙・サイバー・電磁波等に対応するため、将来の戦い方を創造し関係機関と連携を図りつつ、訓練環境整備に努めております。

続いて戦闘射撃シミュレータ訓練支援以下GCSS)を説明します。GCSS訓練は小銃の重さ、反動及び音

今回は現在64歳の私が東部方面指揮所訓練支援隊(以下EACTS)を紹介します。EACTSはシステム及びシミュレータを活用した方面隊隷下師団等の練成訓練支援を任務とし、指揮所訓練支援及び戦闘射撃訓練シミュレータ訓練支援を行う東部方面隊唯一の部隊です。

BCTC訓練(指揮

算勤務12年8ヶ月間お世話になった、自衛官勤務46年の老兵による部隊勤務所感を終わります。

を体感しつつ練度向上を図ることができるよう訓練装置です。近年は防衛法制訓練や衛生職種の第一線救護のシナリオを追加しつつ、従来からの小部隊の射撃指揮能力及び射撃能力の向上に寄与しています。

最先任 上級曹長 「前進」「愚直に」 第30普通科連隊 生田 桐彦 准陸尉



令和5年12月1日付で、第7代第30普通科連隊最先任上級曹長兼ねて新発田駐屯地最先任上級曹長に上番しました生田准尉です。

30普通連は新潟県北部の防衛警備及び災害派遣に任ずる部隊として、全国でも珍しい城跡内の駐屯地である新発田駐屯地に所在し「菖城魂（しょうじょうたましい）」を発揮して日々任務に邁進しています。

「菖城魂」とは、どんな土壌でも根を強くして美しく花を咲かせる新発田市代表の花、菖蒲（あやめ）の如く、我が部隊特有の決してあきらめず粘り強くひたむきに前へ進み続ける伝統的な気質を表し、それは地域を見守り続けてきた新発田城のように安心・安全の要としての覚悟と実力を象徴するものです。

連隊長を核心として、統率方針「使命の完遂」要望事項「プロフェッショナルの実践」「備える」「応える」「育む」の具現化と伝統の継承に全力を注ぐべく、最先任上番間心得として「前進」「愚直に」の2つを掲げました。伝統の継承といってもコピーではなく不易流行で良いことは継承してさらに育み、時代の変化に合致していないこの自分より、明日の自分が、一つでもレベルアップを出来ているように「日々前進」して経験させてもらっている事に感謝して、その瞬間瞬間を大切に日々成長できるようにしていきたいです。

成20年9月に公募予備自衛官に任用されました。親が自衛官だったこともあり幼い頃から自衛隊に興味を持っていました。が、体力も無く地元志向だったというところもあり、郵便局に入局しました。

20代の頃にほんやりと国や地域を守るといふこと、周辺国の脅威について考えるようになりまして。ただ、考えや知識だけを増やしても頭でっかちになっただけだったので、予備自衛官に任用された。少しは国を守るために働ければと予備自衛官補を受験しました。予備自衛官補採用後、予備自衛官任用のための訓練を無事に終了し、晴れて予備自衛官に任用されました。

予備自衛官に任用されてから10年ほど経ったところ、国際情勢の緊張感も高まっており「もっと世の中の力になりたい」「一い」という気持ちを抱くようになった。そんな時に地本の担当者よりお声がけして頂き、年齢や職場環境を考慮すれば今を逃すと、もう難しいと決断し、同時に家族との時間を大切に、子供の成長を楽しみに過ごしていきたいと思っています。

即応予備自衛官を志願しました。即応予備自衛官を目指して特技取得訓練に参加しましたが、学ぶことも濃く、とても新鮮な日々を過ごしました。若い仲間と一緒に訓練を受けるのは肉体的には辛いものもありましたが、今となっては人生のスパイスになっと思っています。

最後に、職業・環境・年齢などバラバラですが、何かしら似た思いを持って訓練に出頭し、同じ金の飯を食う先輩や仲間たちに出会えたことが何よりも嬉しいですね。これからも、日本の国防にほんの僅かかもしれませんが寄与していきたいと思っています。

「日々前進」 第306施設隊 梨木 さくら 陸士長



今月のフェアレディーは松本駐屯地に所在する第306施設隊渡河交通小隊架橋手の梨木士長です。梨木士長は令和3年

Q現在の職務は？
施設科の架橋手として不整地等において橋を架けたり河川では対岸へ車

Q自衛隊に入隊したきっかけは？
自衛隊の国防・災害派遣等の任務の中で国民の安全を守り、多くの方々の笑顔を守るところに「やりがい」「魅力を感じ」入隊を決めました。

Q自衛隊に入隊したきっかけは？
自衛隊の国防・災害派遣等の任務の中で国民の安全を守り、多くの方々の笑顔を守るところに「やりがい」「魅力を感じ」入隊を決めました。

Q休日の過ごし方は？
先輩や友人・後輩と一緒にいろいろな地域の美味しい物を探したり、その土地の文化や歴史を学ぶことにはまっています。

Q自衛隊の転属では全国各地へ行けるチャンスがあるので、行ったことの無いところへ行き、美味しい物巡りや今まで知らなかった文化・歴史を学びたいです。

Qモットー、心掛けています。
1日1UPです。今日

東方男児 「不易流行」 第34普通科連隊 須藤 将太 3等陸曹



今月の東方男児は板妻駐屯地に所在する第34普通科連隊の須藤3曹を紹介いたします。

須藤3曹は2年前の令和4年度師団格闘集合訓練で部隊格闘指導官として必要な技能を修得し格闘き章を取得しました。現在は令和6年度師団格闘

Q格闘・日本拳法を始めたいきっかけは？
僕は入隊したとき、や

最初は自分より背の低い選手から投げられたり、顔面へ突きをもらったりと身体的な痛さより、自分の強みである高身長が活かせてない自分

Q格闘訓練でつらいことは？
最初は自分より背の低い選手から投げられたり、顔面へ突きをもらったりと身体的な痛さより、自分の強みである高身長が活かせてない自分

世話になっている部隊の先輩が学生として参加しているの、その先輩の恩に報いるためにも自分が学生の時以上の熱量をもって指導しています。

Qモットーは？
平成24年に入隊したときから体も大きくなり、部隊格闘指導官もとることができました。しかし、それに奮ることなく謙虚に感謝の気持ち忘れず頑張っていくことが大事だと思っているので「不易流行」が僕のモットーです。

Q今後の目標は？
憧れだけでは上級格闘指導官のき章は取得できませんが、その「憧れ」を追いつつ、日々訓練や



私は平成18年に予備自衛官補として志願し、平成20年9月に公募予備自衛官に任用されました。親が自衛官だったこともあり幼い頃から自衛隊に興味を持っていました。が、体力も無く地元志向だったというところもあり、郵便局に入局しました。

20代の頃にほんやりと国や地域を守るといふこと、周辺国の脅威について考えるようになりまして。ただ、考えや知識だけを増やしても頭でっかちになっただけだったので、予備自衛官に任用された。少しは国を守るために働ければと予備自衛官補を受験しました。予備自衛官補採用後、予備自衛官任用のための訓練を無事に終了し、晴れて予備自衛官に任用されました。

予備自衛官に任用されてから10年ほど経ったところ、国際情勢の緊張感も高まっており「もっと世の中の力になりたい」「一い」という気持ちを抱くようになった。そんな時に地本の担当者よりお声がけして頂き、年齢や職場環境を考慮すれば今を逃すと、もう難しいと決断し、同時に家族との時間を大切に、子供の成長を楽しみに過ごしていきたいと思っています。

編集後記

年末に録画した番組を見て面白かった内容が、年明けの新聞でも記事になっていた。おじさんが、路上で知らない誰かを褒めているそう。通称「褒めまっおじさん」は、定職に就かず「すくく、ほめまっ」と段ボールで作った看板を手に、JRの駅前等に立つ位置を目こに変えて、いつも誰かを褒めている。需要はあるのかと疑問に思いますが、性別、年齢を問わず一定数利用客がいるそう。3年も続けているという。SNSの普及やコンプライアンスが厳格され、人間関係が希薄化している現代社会で、褒める側も自己肯定感が上がるというWin-Winである。みんな誰かに褒められたいのだ。面と向かって褒めてもらう事で、自分の存在意義を確かめているのだらう。少子高齢化で、自衛隊を始め日本中の会社や組織が人手不足に悩んでいるが、今いる組織の一人一人がお互いを褒め合い、風通しの良い環境を作っていければ業務も円滑に進むだろう。